

# 育

三年

画数 8  
筆順  
オン  
クソ

一 二 三 六 育 育  
イ ク  
そ だ 二 つ 二 つ 二 二 二 二

成り立ち



↓ 子 ↓ 育 ↓ 育 ↓ 育 ↓ 育

「子」という字をさかさにした形の「子」と、食べる肉をあらわした「月」を組み合わせで作った字です。「子」をさかさにしたのは、「生まれてくる子ども」をあらわしたものです。子どもは頭から先に生まれてくるからです。

「生まれてきた子に食べものをあたえて『そだてる』こと」をあらわした字です。

「子を『そだてる』こと」↓「子が『そだつ』こと」

「育」の音のイクは、肉の音のN音が脱落したものである。」

使い方

▽わたしは、犬のシロをかわいいがっています。シロが子犬だった時から、ずっと育てているので、かわいいのです。

▽ぼくのいえのには、うめの木があります。ぼくが生まれた時、うめたのだそうです。今ではもう、かなり大きく育ちました。

熟語例

▽育児（子供を育てること。「おかあさんの、一ばん大せつなしごとは育児です」などというふうに、つかいます。）

▽育成（育てて、成長させること。「青少年の育成は、国の育成にかかわるだじなもんだいだ」などというふうに、つかいます。）

▽教育（教えること。「子どもを教育することは、大へん大せつな仕事です」などというふうに、つかいます。）

▽愛育（愛し育てること。かわいがって、だいに育てること。）

# 員

三年

画数 10  
筆順  
オン  
クソ

員 員 員  
イ ン  
ク ソ

成り立ち



↓ 員 ↓ 員 ↓ 員 ↓ 員 ↓ 員

まるい形をあらわした「口」と、お金のいみの「貝」とを組み合わせで作った字で、「まるい形をしたお金」のことをあらわした字です。

「円いお金」のいみから、「円い」といういみにつかわれるようになりましたが、「円い」という字は、員にも一つ「口」をくわえて「圓」という字を作ってくべつしました。今の「円」は「圓」の略字です。

それで、員は「お金」といういみにつかわれていましたが、お金の「がく（金高）」を「金員」といいましたので、それは「お金の数」をいみしているために、員に「数」といういみが生まれ、「人の数」を「人員」というようになりしました。そのため、こんどは、「会員」というように「人」のいみにもつかわれるようになりしました。

使い方

▽三年生全員で、近くの山にハイキングに行きました。先生が「班長が人員点呼をするんだよ」と大きな声でいいました。田代君が、ぼくたちの班の班長なので、人員点呼をしました。全員をろっていたので、出発しました。

▽五人一組でやるゲームがあります。でも、わたしたちの仲間は全部で六人でした。「二人は員数外になるね、どうしようか」と話し合っ、こうたいで遊ぶことになりました。

熟語例

▽人員（人の数。「人員点呼」といえば、何人いるかというのを確かめることです。）

▽会員（その会に入っている人。「ぼくは、『学校をきれいにする会』の会員です」などと、つかいます。）

▽員数（ものの数。とくに、ある、きまつた数のことをいいます。「員数外」といえば、きめられた数に外れている、という意味になります。）

▽教員（教える人、つまり「先生」のことです。先生が自分のことを言う時には「教員」といいます。）